

主催者開会挨拶

国土交通省水管理・国土保全局 下水道部 流域管理官 岡本 誠一郎

開会にあたり、主催者を代表してひと言ご挨拶を申し上げます。

本日、下水道展で多数の企画・展示がある中で、大勢の皆様にお集まりいただきましたことを、心より御礼申し上げます。

今回、市民科学と下水道という企画を開催させていただきました。ご参加の皆様方には、市民科学というのはいったい何なのだろう、なぜ下水道と市民科学なのだろう、あるいは今なぜ市民科学なのだろう、といろいろなクエスチョンマークをお持ちの方が大勢いらっしゃるかと思います。

一般的な答えはお手元のガイドブック（写真－１）に書いてありますが、そのガイドブックは2つあります。1つは市民あるいは団体の方々向けの青いガイドブックで、もう一方は下水道の行政向けの赤いガイドブックです。両方を見比べると、結構書きぶりが違うことに気がつかれると思います。

写真－１ 下水道の「市民科学」ガイドブック



市民科学は文字どおり「市民の活動」ですが、一方のガイドブックは、市民の、あるいは環境に関心のある団体の方々の立場、目線から、下水道の市民科学に誘うためのものであり、もう一方は下水道行政の方々に対して市民科学というものはどれだけ効果があるか価値があるかといったことをPRするためのものです。

この2つの違う視点のガイドブックをまとめ、この3月に国土交通省から公表させてい

いただきました。この違う視点での2つの視線の交差点には、新しい価値が見出せるのではないかと思います。

今日のシンポジウムの中で、それぞれ皆様のお立場から、それぞれの価値を少しでも見出していただければ幸いです。

今日は、冒頭に東京都市大学特別教授の小堀洋美先生に基調講演を、そして各地で水の取り組みをしていただいている団体の方からケーススタディを紹介していただきます。そういった中から市民科学、特に下水道の市民科学の価値を、皆様に感じていただければと思います。どうぞ皆様、このシンポジウムをお楽しみいただいて、市民科学に関わりを持っていただければ、大変ありがたく思います。

それでは皆様、どうぞよろしく願いいたします。